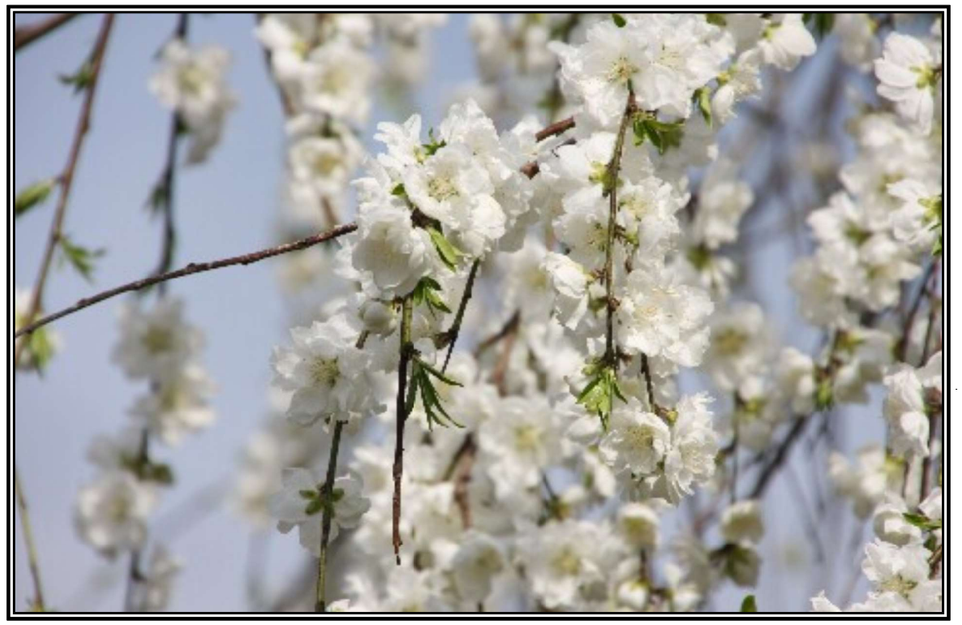

▲　陽光のもと、枝垂れ桃　（4月4日撮影　当山）

# 慧光

金光寺寺報
第２６１号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎ ０９８２
８３－２３３８

## 今月のことば　法語カレンダー

仏法の鏡の前に　立たないと　自分が自分になれない

二階堂　行邦

今月のことばは、まず仏法を鏡に譬えています。鏡は私たち自身の外見を映し出すものです。そして鏡は、私たち自身の内にあるものではなく、外にあるという点が大切です。

私たちは、自分のことは誰よりも自分こそがよく知っていると考えがちではないでしょうか。しかし、よくよく考えてみると、必ずしもそうではありません。他者の助言によって、それまで自分では気がつくことができていなかった、自分の長所や短所に気づいた経験は、多くの方がお持ちでしょう。自分をよく知るためには、外から自分を映し出してくれる、確かな鏡との出あいが必要である、ということです。

阿弥陀如来の教えは、私たちの心を映し出す鏡です。お釈迦さま以来、二千五百年にわたり、時代・地域を超えて、人々の心を映し出し、その課題を私たちに示し続けてきた鏡です。まず、この鏡に正面から向き合うことの必要性が示されているといえます。

私たちは多かれ少なかれ、何かしらの不満を抱えながら生きています。何かに十分満足したといっても、その満足がずっと続くわけではありません。また別の何かを望まずにはいられません。いつまでもいつまでも、「自分には、何かが足りない」「何かを忘れた」と一種の自己否定を繰り返しながら生きている、といえます。それを「自分が自分になれない」とおっしゃっています。果たして私たちは、このような自分の姿に気づくことができていたでしょうか。そのことを映し出すものが「仏法の鏡」、つまり阿弥陀如来なのです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）





## 仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事はお受けできません。ご協力をお願いします。

◎　５月
９日～１１日（終日）
１６日～１７日（終日）

３月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。
謹んでお悔やみ申し上げます。
２０２３年　３月　１日満８９歳
本屋敷　山　本　文　香　様
２０２３年　３月　７日満９２歳
小切畑　馬　原　ケサ子　様
２０２３年　３月１９日満９７歳
祇園町　西　村　セツ子　様

鞍岡の３月の天候　（アメダス）
最低気温・－４．１℃（　３日）
最高気温・２３．１℃（２３日）
冬日日数・　６日/３１日
真冬日日数・　０日/３１日
月間総雨量・110.0mm(降雨日数・13日)
一日最大雨量・３６．５mm（２１日）

**ホームページ開いています。**
URL　https://konkouji.jp/
**４月６日現在アクセス数　141,525人**

## 金光寺のひと月

三月

一日　山本文香様　臨終勤行・通夜
二日　山本文香様　葬儀
山本文香様　初・七日忌
三日　当山前坊守釋妙順　月忌
山本文香様　礼参り
四日　金光寺仏教婦人会役員会
会計監査
五日　鶴井光義様　三回忌
那須春男様　三回忌
甲斐賢治様　六・七日忌
六日　吉岡重徳様　五・七日忌
片岡　昭様　三・七日忌
七日　青井　傳様　二・七日忌
親鸞聖人お厨子搬入
八日　馬原ケサ子様　臨終勤行
馬原ケサ子様　通夜
九日　馬原ケサ子様　葬儀、火葬
十日　馬原ケサ子様　初・七日忌
宮崎教区慶讃法要委員会
十一日　馬原ケサ子様　礼参り
西山徳佐様　三十三回忌
秋原政宗様　三回忌
十二日　甲斐賢治様　満中陰
十三日　吉岡重徳様　六・七日忌
片岡　昭様　四・七日忌
十四日　山本文香様　二・七日忌
本屋敷地区
青井　傳様　寺報配布
三・七日忌
十五日　宮崎別院責任役員・総代会
第七回組長会
十七日　松岡人美様　五十回忌
十八日　当山前住職釋依章　二十回忌
馬原ミツ子様　十七回忌
十九日　吉岡重徳様　満中陰・納骨
浄覚寺前住職　通夜
西村セツ子様　臨終勤行
二十日　浄覚寺前住職　葬儀
馬原ケサ子様　二・七日忌
片岡　昭様　五・七日忌
福島夏芳様　二十五回忌
二十一日　金光寺彼岸会法要
金光寺仏教婦人会総会
山本文香様　三・七日忌
青井　傳様　四・七日忌
西村セツ子様　通夜
二十二日　石井　勇家　入仏式
西村セツ子様　葬儀、火葬
西村セツ子様　初・七日忌
西村セツ子様　礼参り
二十三日　片岡　昭様　六・七日忌
二十六日　馬原ケサ子様　三・七日忌
二十七日　山本文香様　四・七日忌
二十八日　青井　傳様　五・七日忌
片岡　昭様　中陰、納骨
二十九日　藤木タマコ様　三十三回忌
長舘キクミ様　五十回忌
長舘家・藤木家　永代経法要

## 住職ひとりごと

当山の桜（三ページ下段中央の写真）は三月三十日に咲き始め四月の三日には満開になりました。寺村組（隣保班）とでは当山の桜で花見をするこ（四日）になっておりまして、急きょ昨日（花見を行いました。

仕事を終えて午後五時半から夜桜でとい。

「でしたが、総勢十二名全員「花よりだんご」状態。「にぎ酒を飲み、話し、看団子」や時間に風に咲とたにや

▼箸か今日つ天候はく、やはや強盛りいで。うりい松若に

雨散い、せっもまるもあ、ょとうい夜半間

丸ていしるかせうもの。ょはう半

は吹ぬりまま桜仰ぎ見かんがわがのであ守

断がまたぬかあさって、前せ見かんがわがのであ守

近せでぬかあさって、前せ見かんがわがのであ守

習さ近せでぬかあさって、前せ見かんがわがのであ守

覚て習さ近せでぬかあさって、前せ見かんがわがのであ守

られ練断がまたぬかあさって、前せ見かんがわがのであ守

守出吹は丸散い雨▼箸か今日つ天候はく、やはや強盛りいで。うりい松若に

出

ほこ文たま再ていが▼にもまのしるっのけた楽み、はし時間し、ぎ風に咲とたにや

上

子

の手うな文たま再ていが▼にもまのしるっのけた楽み、はし時間し、ぎ風に咲とたにや

方ながいを正す開いて、松花のせ仰ま桜かく候話やい状態。に看

がお正と覚信。さたき坊若見かんせうもく、はを時を態。に看

早経し言え偈私れ正ま守丸がわがのであ、今やい話を態。に看

いのいいなでと、信しのさで守丸がわがのであ、今やい話を態。に看

と覚のまいし息付偈た六まきで夜おょとはや時間し、ぎ風に咲とたにや

思えですとた子きの。月でてす半りうい盛強間し、ぎ風に咲とたにや

う方し。おがは合おーのはよねに夜。うりいで、に看

の、ょそ経、耳わ経時得あか。嵐半松間に風し看

で私うちが坊かさの中度りっ散ので若に咲とたにや

（住職　松井卓郎）